1986年(昭和61年)12月29日　月曜日　13版　（4）

仏内閣 スト拡大で苦境に

国鉄軸に波状攻勢

空や海 郵便も 合理化や管理に反発

【パリ二十八日＝横田特派員】フランスの年末は相次ぐ公共部門のストで異常な混乱が続いている。十二月上旬、六八年「五月革命」以来の規模とされた学生デモ、ストが政府の大学制度改革案撤回で一応の収拾はみたものの、今度は労働者側のシラク内閣に対する不満がストの形で噴出したとみられ、底流には厳しい経済情勢下での賃上げ要求が強く、年内収拾のメドも立っていない。シラク内閣は窮地のまま、八七年を迎えようとしている。

今年のパリのクリスマス・年末休暇は異常だ。国鉄、地下鉄の間引き運転ストで各駅構内は人であふれかえり、時にはあきらめて帰宅したり、スキー観光客は、いつもとのとれない自動車の列。クリスマスイブは深夜まで、一刻も早くにぎわい、高速道路は渋滞し、年末休暇の利用者のピーク時にかかわらず十日以上続き、年内収拾のメドも立っていない。

公共部門のストはまず、八日に、パリ地下鉄・郊外鉄道が運賃値上げ要求で三日間の部分スト。仏国内航空労組がエアバスA320の乗務員削減に抗議スト。パリの航空管制労組が休日要求でスト。仏南部の海員組合ストと続いた。

いずれも共産党系の労働総同盟（CGT）、社会党系の民主労働総同盟（CFDT）がストを指導、支援しているが、目立つのは要求が制度問題や合理化、官営民化への抗議になっていること、職場や地域などの闘争が急速に全体へ拡大し、当局との対決姿勢が強硬であることなどだ。

さらに重要な側面は、十七日にミッテラン大統領が指令権を発動した政府の労働時間法制に関する改令（オルドナンス）とのかかわりだ。シラク政府の発表した同改令は既時外労働を日曜・夜間労働の規制緩和を目的としたものだが、労働者側はこれに強く反発して和、スト収拾のためには、政府の改令の取り扱い方をかかわっている。

十二月上旬の学生デモは、政府にひとつの法案を撤回させるという成果を残した。有権者総リベランダンは、「学生デモのちゃりが労働者に受け継がれ、公共部門のストはシラク温度に向けられる」と言う。政治的には今後も拡大し、労使対決はさらに厳しくなりそうだ。その間、パリ地下鉄・郊外鉄道労組が運賃値上げ要求で三日間の部分スト。仏国内航空労組がエアバスA320の乗務員削減に抗議スト。パリの航空管制労組が休日要求でスト。仏南部の海員組合ストと続いた。

いずれも共産党系の労働総同盟（CGT）、社会党系の民主労働総同盟（CFDT）がストを指導、支援しているが、目立つのは要求が制度問題や合理化、官営民化への抗議になっていること、職場や地域などの闘争が急速に全体へ拡大し、当局との対決姿勢が強硬であることなどだ。

さらに重要な側面は、十七日にミッテラン大統領が指令権を発動した政府の労働時間法制に関する改令（オルドナンス）とのかかわりだ。シラク政府の発表した同改令は既時外労働を日曜・夜間労働の規制緩和を目的としたものだが、労働者側はこれに強く反発して和、スト収拾のためには、政府の改令の取り扱い方をかかわっている。

十二月上旬の学生デモは、政府にひとつの法案を撤回させるという成果を残した。有権者総リベランダンは、「学生デモのちゃりが労働者に受け継がれ、公共部門のストはシラク温度に向けられる」と言う。政治的には今後も拡大し、労使対決はさらに厳しくなりそうだ。その間、パリ地下鉄・郊外鉄道労組が運賃値上げ要求で三日間の部分スト。仏国内航空労組がエアバスA320の乗務員削減に抗議スト。パリの航空管制労組が休日要求でスト。仏南部の海員組合ストと続いた。

いずれも共産党系の労働総同盟（CGT）、社会党系の民主労働総同盟（CFDT）がストを指導、支援しているが、目立つのは要求が制度問題や合理化、官営民化への抗議になっていること、職場や地域などの闘争が急速に全体へ拡大し、当局との対決姿勢が強硬であることなどだ。

さらに重要な側面は、十七日にミッテラン大統領が指令権を発動した政府の労働時間法制に関する改令（オルドナンス）とのかかわりだ。シラク政府の発表した同改令は既時外労働を日曜・夜間労働の規制緩和を目的としたものだが、労働者側はこれに強く反発して和、スト収拾のためには、政府の改令の取り扱い方をかかわっている。

十二月上旬の学生デモは、政府にひとつの法案を撤回させるという成果を残した。有権者総リベランダンは、「学生デモのちゃりが労働者に受け継がれ、公共部門のストはシラク温度に向けられる」と言う。政治的には今後も拡大し、労使対決は

27日、国鉄ストの続く仏・リヨンで振り替え輸送のバスに殺到する帰省客ら＝ロイター・サン

国鉄に次ぎ電気、郵便など

フランスのスト泥沼化

【パリ六日共同】フランスの最有力労働者組織の労働総同盟（CGT）は六日、シラク保守内閣の賃上げ抑制など経済政策全体に反対して、傘下の電力、ガス、郵便、港湾、電信・電話、交通、兵器産業各組合に二十四時間ストの指令を出した。

社会党系の民主労働総同盟

12/18に始まったフランス国鉄スト 遂に1/6で20日目に突入

電力・ガス・郵便・電話・地下鉄労働者、連帯、カ国鉄スト支援にたち！

仏国鉄ストが重大局面

政府は切り崩しに懸命

CGT、闘争拡大へ

5日、フランス南部の都市ニースで、スト中の国鉄労組員が駅構内に入ろうとするのを実力で阻止する警察隊（左）（ロイター・サン＝共同）

86.12.29 朝日
87.1.7 毎日新聞

日刊 動労千葉

87.1.8

No. 2447

87決戦の年を迎えて ①

支部長の決意

新たな労働運動の創造へ

木更津支部・斉藤　勇

〝起承転結〟とは文章を構成する上で一つのパターン化されているものであるが、分割・民営化阻止を闘う国鉄労働運動の側もまさにその過程をとおり、一昨年の再建監理委の答申から雇用安定協約をめぐる「十一・二八―二九スト」を頂点とした闘いが〝起〟であり、「二・一五第二波―業務移管阻止―六一・三ダイ改強行阻止」の闘いを〝承〟とし、物販、上映会運動の展開と全国各地の人活センターの闘いに端を発した国労修善寺大会の山崎体制の打倒―六本木新体制の確立―国労共闘の圧倒的前進。そして、十一月三十日動労総連合の結成―絶対阻止派の胎頭が大いなる国鉄労働運動の〝転〟であったと考えます。

年頭にあたって心底から感じていることは、最後に残された〝結〟を真の労働者の手づくりによる労働運動＝動労総連合と国労共闘が全ての国鉄労働者の結集体となり勝利をつかんでいく年にしなければならないということです。

そのための情勢は、すでに沸騰点に近づいています。

十万人の首切り、労働運動の解体をもってする中曽根の「戦後政治の総決算」―戦争への道を許さず全力で闘いぬこう。

自らの手で、自らの未来を切り拓こう

津田沼支部・綾部光男

一九八七年は、まさに我々労働者人民にとって命運のかかった決戦だ。

労働者として生きることさえ危うくなる中曽根の分割・民営化強行という犯罪行為に対して、我々の回答はあくまでも中曽根打倒、去るも地獄、残るも地獄という二つの地獄にたち向かい、お先真暗な職場にさせないための闘いを貫徹することである。

そのためには、今日の大情勢に打ちかてる支部の団結を強化し、八七年冒頭から重大な決意をこめて決起していきたい。

法案の通過で「四月一日新会社」移行の綱渡り的スケジュールで逆においつめられているのは中曽根・杉浦であり、職場生産点での労働者の全面協力、総屈服ぬきに分割・民営化の狙いは打ち砕かれ、逆に敵の矛盾はドンドン拡大していくことは明らかである。

闘いの火の手は高崎・水戸で開始されたように分割・民営化絶対阻止派の登場によって現実に「一企業一組合」なるものも吹きとびかねない事態へと突き進んでいる。

今こそチャンスが到来している。これは動労千葉の苦闘によって切り拓かれたもので、この一年間の闘いが水泡にきさないように、ここまできて負けイヌになれるかという腹を固め、敵の最後の切り札である差別・選別を軸とした攻撃、処分の乱発、人権無視、組織破壊のあらゆる手段を使った切り崩し攻撃に耐え、乗り切り、大きな流動化を全国にさらにまきおこそう。

動労千葉、動労総連合こそが歴史の歯車をかえる力をもった唯一責任をもった労働組合であることをガッチリと確認し、全国にはまだまだ真に闘おうとする仲間が多くいることに自信と確信をもとう。

ストライキを十日以上にわたって闘いぬいているフランス国鉄労働者の闘いに学び連帯し、自らの手で自らの未来を切り拓こう！

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一―八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二(22)七二〇七